

## 平成 28 年度第 2 回福祉サービス運営委員会報告

平成 29 年 3 月 7 日本部会議室において第 2 回福祉サービス運営委員会が開催された。岡村委員長代行の挨拶の後、事務局及び各施設の現状と苦情や要望の状況が報告・協議が行われた。

### 1 本部事務局

- ①社会福祉法改正への対応（評議員選定委員会報告）、理事会について、使命及び理念の具現化、事業計画進捗状況等について説明
- ② 苦情及び要望等なし

### 2 別府厚生館～15 世帯 45 名

- ①重点的取組～福祉事務所との協議で利用者支援の具体的方策、改善状況等を報告し共有
- ② 苦情～ 母子室訪問で入室する際、利用者がドアを開ける前に職員が開けてしまう、  
・職員の対応・避難訓練の放送・帰宅時間・浴室の不具合・隣室の騒音について改善を  
近隣より～業者等の路上駐車について
- ③ ヒヤリハット（3 件）～保育園登園中に車道へ飛び出し
- ④ 感染症 インフルエンザ 2 世帯

### 3 うえの園・清明あけぼの学園

うえの園 20 名（定員 19 名）生活介護 定員 20 名、日中一時支援・短期入所定員 2 名、相談支援事業所  
清明あけぼの学園 9 名（定員 10 名）、日中一時支援、短期入所 定員 2 名

- ①重点的取組～大規模改修工事 12 月 20 日竣工、利用者の高齢化に伴う終末期支援検討
- ②苦情・要望～新年度に向けての担当者や外出等の要望子ども同士のトラブルの取扱
- ③ヒヤリハット  
・転倒、他害行為、自傷行為・不意の行動（単独で玄関から出る）・服薬ミス（薬 1 錠が床に落ちていた）  
対応～リスク共用ノート、委員会による見直しと情報共有  
\*利用者退園 ～ 痙攣重責発作のため病院へ移行 誤嚥性肺炎のため老健へ移行

### 4 森の木～本体施設 37 名 地域小規模 10 名 被虐待児童入所率（73%）発達障害（33.3%）

子育て支援事業（ショートステイ 45 名 173 日）ゆずりは 相談 295 件、心理療法 23 件  
子育てサロン 23 件メール相談 32 件

- ①重点的取組～使命及び理念の具現化 7 項目の重点目標を設定し全職員に徹底し支援
- ② 苦情等～・聴き耳頭巾相談～児童の暴言、脱出したい・保護者から～学校でいじめられている  
・地域から～森の木の子どもからたたかれた、ペンシルの芯をとられた
- ③ ヒヤリハット～ヒヤリハットメモ 112 件  
・ 児童の帰宅時に靴が汚れていた。おさがりのパジャマを持たせていたことへの苦情  
・ 公用車の損傷(バンパー等のかすり傷)が多かった。
- ④ ハラスメント委員会～投書箱の設置（投書 1 件）上司からのパワーハラスメントへの訴え（本部へ）
- ⑤ ぜんそくで入院 中 3 女子 1 名

### 5 滝尾保育園～171 名（定員 140 名）当局より待機児童対応のために、保育室面積に応じた人数の受入を依頼

①現状 改築（旧園舎の解体は来年度へ繰り越しとなったが、3 月 31 日から新園舎での保育）

平成 29 年度一時預かり事業開始、子育て相談子そだて広場参加者増、

課題 保育士確保と人材育成

#### ②苦情等

- ・近隣より～工事時間は何時までなのか、工事のため駐車場が狭くなっていて送迎時に混み合う

#### ③ヒヤリハット

- ・公園入口の手すり前で前歯を打つ、・ロッカーの角で鼻を打ち、鼻の中から下にかけて傷、・噛みつき

- ・避難訓練の時、3歳児が4歳児クラスと先に避難

#### ④ 感染症 インフルエンザA型、 感染性胃腸炎その他

その他

11月25日、2歳4ヶ月の男児が自宅で就寝中の脳血栓により死亡

～5歳児兄が、精神的なショックから奇声をあげたり、はしゃいだり等の行動があり・・・「ゆずりは」に対応をお願いし落ち着きつつある。保護者も安心している。

### 6 明野しいのみ保育園～139名（定員138名）

①理念と方針の取組～週1回ミーティング時に読上げを行った。理念、方針の視点から職員行動規範の見直し、今後継続して、行動規範に基づき適切な行動が取れるよう努力を重ねると共に互いに確認

- ・目標管理について～業務関連、自己資質向上についての目標を設定し取組んだ。自己研修参加やスキルアップに取組む姿が見られた。

#### ②要望及び苦情

- ・近隣住民より保育園近くでの車のマナーについて（スピード）安全面での申し入れがあった。
- ・卒園式で保護者から園児が見えるような工夫をしてほしい。

#### ③ヒヤリハット～付箋を利用し、リスク委員会で検討し、情報を共有

#### ④事故怪我等（報告書→委員会でのシエル分析→回覧→職員会議にて報告）

- ・園庭で友達と追いかけてっこをしていて転び右肘内症、雲梯から着地時に打撲・骨折
- ・無呼吸発作、低血糖発作（朝食抜き）
- ・食物アレルギー～除去解除後に湿疹、チーズ・ヨーグルトによる発赤

#### ⑤感染症等各種

手洗い・うがいを丁寧に行うように支援を徹底（毎月1日「手洗いの日」設定）

その他

- ・今年度は、園庭での怪我が多かったことから、分析や対策実施～基礎体力増進や遊具の遊び方の指導など研修を受け積極的に保育に取り入れた。
- ・保護者面接（希望者）を行い、子どもの育ちについて話したり相談に応じたりした。発達の相談には、「ゆずりは」と連携をとり良い支援の方向に向かった。

### 7 協議

#### ○ 利用者家族から

- ・「ゆずりは」がすごく役立っている。
- ・うへの園は工事が終わり、清潔感のあるすばらしい施設になった。
- ・医療など関係機関との連携を深めることが重要

#### 第三者委員から

- ・虐待を受けている子どもはとにかく「自分を見てほしい」という思いで様々な行動をとる。職員間での連携をとりながら対応することが大切
- ・各施設が課題解決に尽力していることがわかる。
- ・理念、目標を掲げよりよい環境づくり、利用者の幸福度を高めていることがすばらしい。常に理念や目標を職員と確認し、生きがいを以て働けることが大切
- ・医療機関や高齢者施設及び関係機関との連携を深めるには協定の締結も必要ではないか
- ・様々な状況に応じた対応マニュアルを作成することが必要

最後に「前向きな意見をいただき感謝している。終末期の連携については、広く社会的ニーズもあり行政等にも働きかけ関係機関と幅広く連携を深め、ご家族の皆さんに安心していただけるサービスを提供していきたい」との挨拶で終了。